

和地ひとみレポート No.304



運転士人件費

ちよこバス運行事業費の積算方法の変更

補助額がアップするちよこバスの真の目的は

■ちよこバスの補助金の計算方法の変更

…1月28日に開催された全員協議会では、ちよこバスの運行事業費について、計算方法が変わることが説明されました。東大和市のちよこバスは西武バスに運行を委託しており、運行経費から運賃収入と広告収入を引いた分を市が補助金として西武バスに支払うという方法を取っています。

$$\text{市の補助金} = \text{運行経費} - (\text{運賃収入} + \text{広告収入})$$

…市の補助金はちよこバス運行の赤字を補てんするものですが、毎年約4000万円以上にもなる補助額については市議会だけでなく市民の方からも問題視されてきました。この補助金の額については、上記の計算式の通り、運行経費が元となっていますが、この運行経費については西武バスが計算をします。

…今回の全員協議会は、この運行経費の計算方法が来年度から変更されることについて、説明するために開催されたものです。

■東大和市だけが特別な計算方法だった

…東大和市が運行を委託している西武バスは、12の自治体のコミュニティバスの運行を受託しています。それらの自治体がコミュニティバスの運行経費の赤字分を補助金として西武バスに支払っている状況は東大和市と同様ですが、その運行経費の計算方法については、東大和市だけが違う計算方法だったことが最初に示され、来年度からは他の自治体と同様の計算方法に変更するということが説明されました。

【下記、経費の算定方法についての説明】

西武バス(株)資料参考

A: 運転士の人件費

コミュニティバスについては、運転士の人件費単価を抑えるために、人件費水準の低い新人運転士を乗務させているものと仮定して計算。新人運転士では賄えない不足ダイヤ数のみ、ベテラン運転士が乗務するものと仮定して単価を計算しているため、時間外手当と合わせ、実際に掛かった経費より大幅に割安な単価としている。

B: 整備・修繕費など

国土交通省に提出を義務付けられている事業報告書およびその基礎資料から、当該費目の総経費(コミュニティバスに関係のない経費を除く)を算出し、これを総走行距離(km)で割り、1kmあたりの単価を算出。前年度実績により当該年度の経費を算出する。毎年6月頃に単価は確定。

C: 燃料油脂費

軽油仕入れ額の平均価格で算定。西武バスは大量仕入を行っているため、市中価格より安価な額となっている。燃費は、前年度のちよこバスの燃費。

D: 自動車税、自賠責保険料などは実費

…この算定費目については、コミュニティバスの運行を受託している全自治体共通のものですが、変動要素が高いのはAとBとCです。東大和市以外の自治体では、これらの費目を毎年、実績に基づき算定していますが、東大和市のみ、人件費については固定で算定されていました。

(裏面に続く)

※西武バス(株)資料より

◆コミュニティバスの運行経費の費目、算定方法など

費目	用途	算定方法	
運送費	営業所の経費	-	
人件費	営業所の人件費	-	
	運転士	運転士人件費	A
	運転士時間外	運転士の時間外勤務の費用	-
	その他	営業所に勤務する事務員、整備士の人件費	B
燃料油脂費	燃料油脂の購入費	C	
車両修繕費	車両の各種点検費用および修繕費用	B	
その他経費	営業所の固定資産償却費、施設修繕費など	B	
一般管理費	本社の経費(人件費、社員募集費等)	B	
諸税ほか	自動車税、自賠責保険料など	D	

■人件費の高騰

…様々な業界で、人材不足が深刻化している中、バス業界においても、運転士確保が難しくなっている状況です。そのうえ、運転士の平均年齢が上がっていることで、人件費は増加傾向にあり、また、将来的にはベテラン運転士が引退することも明らかです。そのため、新たに運転士を採用しなければならないのですが、採用環境は芳しくなく、待遇改善などをしなければ人材確保は困難な状況です。

…前述のとおり、西武バスが受託している自治体においては、コミュニティバス運行経費の人件費も実績で計算する契約となっており、このような運転士人件費の現状も反映されています。しかし、東大和市においては、運転士の人件費については固定で契約。平成21年度以降大きな改定もせず、運転士人件費の一部を平成30年度に見直しただけでした。

…西武バスにおいては、人件費等が高騰しているなか、東大和市のちよこバスについては、毎年、人件費の高騰分の差額を自社で負担。その差額負担分も、年々、増大している状況のため、このたび、西武バスと東大和市で協議を行い、東大和市においても他の自治体と同様に、人件費を毎年、実績に基づき見直すことで合意しました。

■具体的には補助金が500万円以上アップ

…他自治体と同じ方法で31年度からちよこバスの運行経費を積算することになった東大和市ですが、平成31年度と32年度は経過措置として、予算、決算ともに他自治体の前年度の確定単価に基づいて運行経費を積算すること。翌平成33年度の予算については、前年度確定単価に、運転士人件費3%、その他は5%程度の概算伸び率を加算した単価に基づいて積算し、決算については、当該年度中に西武バスが確定した単価に基づいて積算して確定していくとのこと。

…予算については、通常、行政では、不足のないように“上に丸めて”立てるため、概算伸び率を考慮して計上することは理解でき、おそらく、大きくブレることはないと思われます。また、今回の運行経費の算定方法の変更を受け、今後の、ちよこバス運行にかかる補助金の額についても市の見通しが示されましたが、その額は、今までの補助金より500万円以上アップするとのことでした。

…東大和市の平成29年度の決算を見ると、補助金額は4933万円です。この補助金額に単純に500万円プラスすると約5400万円の補助金となることが予想できます。5400万円の補助金を市民約85000人で割ると、約630円。ちよこバスを利用してもしなくても、赤ちゃんから高齢者まで全市民がちよこバス運行に対して年間630円負担しているとも考えられます。この額をどう見るか…。高齢化が進む中、東大和市として、市民の移動手段に対しての考えを明らかにする必要があります。

■市の考えは

…今回の全員協議会には、西武バスの社員の方も出席くださり、現状などについて説明をされましたが、全体として『西武バスの事情で…』という姿勢でいる市のスタンスが見え隠れしていました。

…西武バスは、民間企業ですから、収支が合わない事業を見直すのは当然です。また、東大和市のちよこバスに対してのみ、赤字負担を西武バスがすることはおかしな話で、重要なのは、東大和市がちよこバスについてどのように考えているかだと思います。

…東大和市では、平成28年3月に『東大和市コミュニティバス等運行ガイドライン』を策定。その中の『運行基準』では、「収支率40%を目指すものとし、概ね25%を下回る場合には“運行日、運行時間帯等の見直し”、“現行バスより小型の車両による運行”、“路線の（一部）廃止・変更”を検討する」としています。

…今回の運行経費の積算方法の変更により、運行経費確定のための変動要素が増えました。その多くは、今後、高騰することが見込まれる中、東大和市は収支率を25%以上に維持していくためにどうするのか。具体的には運賃を値上げしても収支率を維持し、ちよこバスを現行の方法で維持していくのか。この点を、市は説明すべきだと思います。私は市に質問しました。

…その答弁では、今の試算では、運行経費の積算方法が変わっても27%程度の収支率は維持できるとのこと。また、ちよこバスについては、東大和市に必要なものとして、継続するという考えであることが示されました。

■真の目的に立ち返ってみる

…今回の協議会の資料では、今後、ちよこバスの運行経費は年間約8000万円程になることが書かれています。そこに、市の見直し基準である収支率25%を乗じると運賃収入で年間約2000万円が必要です。運賃は大人180円（※ICカードの場合175円。小人は半額ですが）です。年間11万1100人の乗車人数が最低限必要。さいわい、平成29年度は前年度比12.1%増の15万162人の乗車人数だったため、25%のラインは維持できています。一方で、市はコミュニティ交通の収支率目標を40%に設定しています。ということは、市民の移動手段としてあるべき姿は40%の収支率＝60%までは市が負担することが行政が実現する公共交通の在り方だという考えだということです。

…現在、ちよこバスは最低ラインは維持しており、今後もその維持は可能と市はみているようですが、そもその目的は「市民の移動手段の確保」です。今回市の示した8000万円という運行経費から考えると、その60%（市の目標の負担率）は4800万円。市にはちよこバスの維持のための収支率の向上への工夫と共に、4800万円で効率的かつ、よりニーズにあった市民の移動手段の実現についても模索し、並行して研究してほしいと思います。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。学校外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在2期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。

東大和市 市議会議員

和地 ひとみ

■ 連絡先

和地 ひとみ事務所

HP : <http://www.wachi1103.jp>

✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp

【電話・FAX】 042-516-8546

〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102